

公開実用 昭和63- 130520

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 130520

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)8月26日

E 01 H 5/09
// B 62 B 13/18

Z-7151-2D
7615-3D

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 小型除雪機

⑯ 実 願 昭62-20095

⑰ 出 願 昭62(1987)2月14日

⑱ 考 案 者 北 岡 教 治 新潟県上越市寺町3丁目10番17号 大島農機株式会社内
⑲ 出 願 人 大島農機株式会社 新潟県上越市寺町3丁目10番17号

明 細 書

1. 考案の名称

小 型 除 雪 機

2. 実用新案登録請求の範囲

掻き込みオーガ及び投雪ブローからなる除雪部を前部に、原動機を後部に装着し、原動機下方に走行車輪を設け、機体下方に設けた櫓を、上方にのみ移動可能とし、下方に付勢し、その状態で上記走行車輪下端部より櫓下面を下方と成し、その櫓を下向きの付勢力に抗して上昇固定して、走行車輪下部を櫓下面より突出させる機構を設けたことを特徴とする小型除雪機。

3. 考案の詳細な説明

< 産業上の利用分野 >

本考案は、小型除雪機における走行装置に関する。

< 従来 of 技術 >

従来、櫓と車輪を併用する小型除雪機は、実開昭 56-159416 号公報の如く、車輪を櫓板の下面より少し突出して設けたり、実開昭 57 -

31325号公報の如く、車輪を上下に回動可能に
枢着して、除雪機の接地部を櫓又は車輪のい
ずれかに選択可能としていた。

〈考案が解決しようとする問題点〉

上記従来型除雪機の前者は、除雪後の路面に
雪が全く残らず櫓では滑りにくい時のために車
輪を設け、雪が残った時には車輪が前進の邪魔
にならないように突出部を少なくしたものであ
り、後者も同様に雪が残った時には櫓で、雪の
残らない時は車輪で走行するように成したもの
である。

上記前者は雪上を前進する際に、車輪による
前進駆動力はその突出部が少なく、あまり期待
できないものであり、後進に際しては、当然後
進駆動系が必要である。又、後者は車輪に動力
が入力されておらず、前進は全て人力に依るも
のである。仮りに、動力を入力するように成す
とすれば、その機構は複雑となる欠点を有して
いた。

櫓付小型除雪機は、通常前進に際しては手押

し式であり、その手押し労力は、機体前部の雪を全てオーガにより掻き込めず、機体の一部で雪を押す部分が必ずあり、大きな抵抗となつて、かなりの重労働であつた。

そこで本考案は、簡単な機構で、前進駆動し、後進駆動系を廃した小型除雪機を提供することを目的とする。

＜問題点を解決するための手段＞

機体下方に設けた櫓を、上方にのみ移動可能とし、下方に付勢し、その状態で走行車輪下端部より櫓下面を下方と成し、その櫓を下向きの付勢力に抗して上昇固定して、車輪を櫓下面より突出させる機構を設ける。

＜作用＞

除雪作業等、前進駆動する際は、櫓を上昇固定し、車輪を突出させて行い、後進又は前進移動する際には櫓を下げて、雪上を滑走させる。

＜実施例＞

図において、1は減速ケースであり、前部にブローケース2を、後部に原動機3を装着し、

